

ヒアリング古典 百人一首 百人一首④



名前

「

」

朝あさぼらけ有明ありあけの月つきと見るみまでに

吉野よしのの里さとに降ふれる白雪しらゆき

坂上さかのうえの是則これのり

山川やまがわに風かぜのかけたるしがらみは

流れながもあへぬ紅葉もみじなりけり

春道はるみち列樹のつらき

ひさかたの光ひかりのどけき春はるの日にひ

しづ心こころなく花はなの散ちるらむん

紀友則きのともりのり

誰たれをかも知るし人ひとにせむ高砂たかさごの

松まつも昔むかしの友ともならなくに

藤原興風ふじわらのおきかぜ

人ひとはいさ心こころも知らずしふるさとは

花はなぞ昔むかしの香かに匂におひけるい

紀貫之きのつらゆき

夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを

雲のいづこに月宿るらむ

清原深養父

白露に風の吹きしく秋の野は

つらぬきとめぬ玉ぞ散りける

文屋朝康

忘らるる身をば思はずちかひてし

人の命の惜しくもあるかな

右近

浅茅生の小野の篠原しのぶれど

あまりてなどか人の恋しき

参議等

しのぶれど色に出でにけりわが恋は

物や思ふと人の問ふまで

平兼盛